

産業戦略としてのサステナブル・ファイナンス～経済成長と気候公約の両立を図る英国の取り組みを事例として～

株式会社日立総合計画研究所 吉田 健一郎

2024年7月に発足した労働党のキア・スターマー政権は、経済成長の達成を第1目標に掲げると同時に、英国をクリーンエネルギー超大国とすることも公約としている。このための手段の一つとして、スターマー政権は、英国を国際的なサステナブル・ファイナンスのハブとすることで経済成長と気候目標の達成を両立させ、同時に産業戦略として金融サービスセクターの競争力強化を実現しようとしている。レイチェル・リーブス財務相は、2025年7月に金融サービスセクターの競争力強化策を発表し、その具体化に向けて動き出した。本論文は、「経済成長」と「脱炭素」というしばしば緊張関係にある目標を調整する手段として、英国がサステナブル・ファイナンスをいかに戦略的に活用してきたかを分析し、英国のサステナブル・ファイナンス政策が、環境目標達成の一環であると同時に国家の産業戦略としての性格を持ち、特にブレグジット後のロンドンの再定位と、金融サービスセクターの国際競争力を維持・強化する手段として機能していることを論じる。